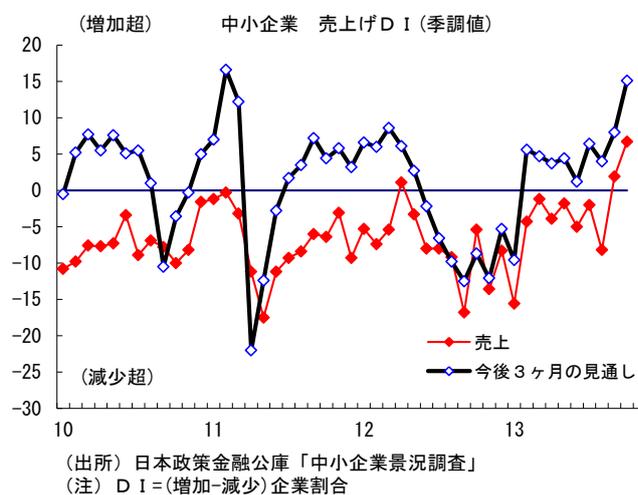
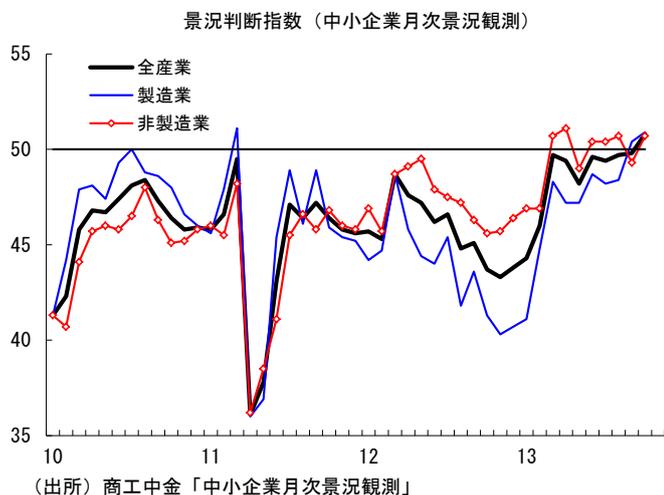


指標名：中小企業の業況(2013年10月)  
～景況感は2007年3月以来の50超に～

発表日2013年10月31日(木)

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 エコノミスト 高橋 大輝  
TEL : 03-5221-4524



## ○景況感は2007年3月以来の50超に

商工中金から公表された10月の「中小企業月次景況観測」(調査時点：10月上旬)の景況判断指数(1000社調査)は、全産業で50.8(9月：49.8)と前月から+1.0ptの上昇となった。景況感の好転悪化の判断基準となる50を越えるのは、2007年3月以来のことである。内訳をみても、製造業、非製造業ともに50超となっており、内容も良い。

業種別にみると、製造業は50.9(前月差+0.5pt)、非製造業も50.7(前月差+1.4pt)とともに上昇した。製造業はこれで4ヶ月連続の上昇である。内需の堅調さや輸出の持ち直しに伴う生産の回復が背景にあるとみられる。非製造業も、5業種中4業種が改善、1業種が横ばいと良好な内容である。堅調な住宅着工や底堅い個人消費などが景況感を支えているものとみられる。

また、日本政策金融公庫から公表された「中小企業景況調査」(調査時点：10月中旬)の売上げDI(季節調整値)は+6.7(9月：+1.9)と大幅に上昇した。2ヶ月連続の大幅改善となり、8月から+14.9pt改善した。需要分野別にみると、建設関連、家電関連、食生活関連などが上昇した。建設関連では、緊急経済対策による公共投資の増加や消費税率引き上げに伴う駆け込み需要が本格化している住宅投資の増加が背景にあるとみられる。また、日本政策金融公庫によると、スマートフォンやタブレット向けの新製品需要などから家電関連も好調とのことだ。一方で、設備投資関連が大幅に悪化した。もともと、前月の大幅上昇後の反動といった面があるとみられることや先行きは上昇を見込んでいることに鑑みれば、悲観的に捉える必要はないだろう。

## ○生産設備や在庫の過剰感が改善傾向で推移

足元で生産設備や在庫の過剰感の改善がみられる。「中小企業月次景況観測」、「中小企業景況調査」ともに昨年後半頃から過剰超幅が縮小傾向で推移している。特に在庫は、製品在庫DI(中小企業月次景況観測)は前月差+2.3pt、在庫水準DI(中小企業景況調査)は同+4.0ptと、10月調査で大きな改善がみられた。こうした動きは、今後の設備投資や生産活動の増加に繋がっていくことが期待されよう。

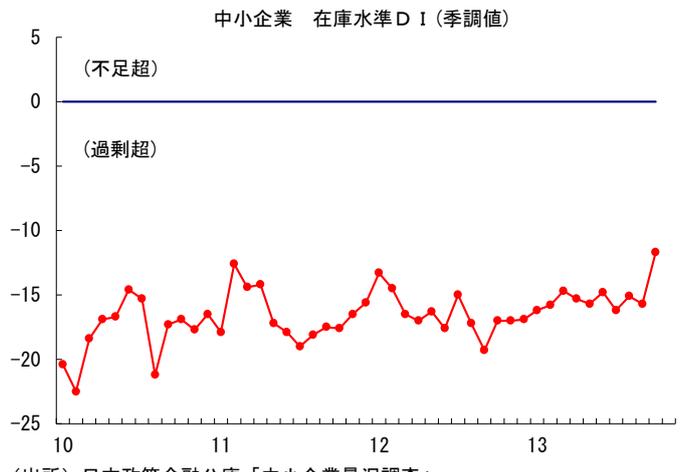
## ○先行きも良好な推移が予想される

このように中小企業の景況感は上昇し、6年7ヶ月ぶりの高水準となった。11月予測で製造業は悪化が予想されているものの、良好な水準は保たれると見込まれている。非製造業では、住宅着工で駆け込み需要の反動が予想される建設などで悪化が見込まれているものの、非製造業全体では上昇が予測されている。

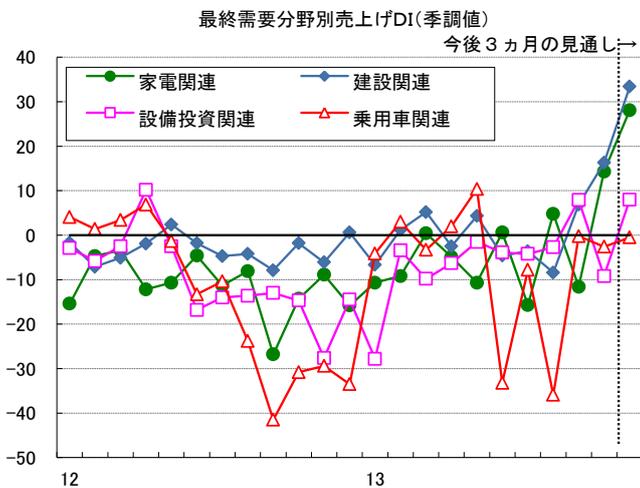
先行き、製造業では、生産の伸びが高まることや円安の恩恵の波及が続くことが見込まれる。非製造業では、7、8月には個人消費に陰りがみられたものの、9月の個人消費関連統計は良好な結果となるなど、底堅い推移がみられる。また、緊急経済対策効果による公共投資の増加や消費税率引き上げ前の駆け込み需要などが見込まれる。こうした要因から、先行きも中小企業の景況感は良好な推移になるものとみている。



(出所) 商工中金「中小企業月次景況観測」



(出所) 日本政策金融公庫「中小企業景況調査」  
(注) DI=(増加-減少)企業割合



(出所) 日本政策金融公庫「中小企業景況調査」  
(注) DI=(増加-減少)企業割合